

細江カトリック教会だより

4月号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15 ☎083-222-2294 📠083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

聖ヨセフ

皆さんがご存じの通り、今年は、『クエマドモドゥム・デウス』の公布、すなわち、聖ヨセフを普遍教会の保護者とする宣言の 150 周年を迎えました。この教令は、福者ピオ九世が、1870年12月8日に、人間の敵意に脅かされていた教会が置かれた、深刻で痛ましい状況に心を動かされ、聖ヨセフを普遍教会の保護者と宣言したことを受けたものです。

主イエスの守護者の力強い庇護への教会全体による信託の永続のため、教皇フランシスコは、その宣言の記念日にあたり、去年12月8日より、今年の12月8日までを、聖ヨセフの特別年として祝うことを決めました。そして同時に、教皇により、聖ヨセフに倣うために使徒的書簡『父の心で』（パトリス・コルデ）が発表されました。新型コロナウイルスのパンデミックが続く中で、聖ヨセフが示してくれているのは、日々の困難を耐え忍び、希望を示しているが、決して目立つことのない「普通の人々」の大切さだ。この書簡が強調するようです。今年の2月20日にその公式訳が、カトリック中央協議会から小冊子として出版されました。中央協議会のホームページ

(<https://www.cbcj.catholic.jp/2021/02/18/22014>)
にも掲載されました。皆さん、ご時間があれば、

どうぞこの書簡をお読みになっていただければ、幸いです。

それでは、聖ヨセフは保護者としての使命をどのように果たすのでしょうか。彼はそれを分別と謙遜と沈黙のうちに、絶えざる同伴と完全な忠実をもって果たします。たとえ意味が分からなくても神の御指示に従って聖母マリアと主イエスとかかわっていくのです。聖ヨセフは平穏な時も困難な時も、聖母マリアに付き添います。聖母マリアが聖霊によって身ごもっていることを聞く時も、住民登録のためにベツレヘムへ旅する時も、出産の不安と喜びの時も、エジプトに避難する時も、神殿で息子を必死に探す時も。その後のナザレの家での日々の生活の中でも、主イエスに仕事を教えて作業場の中でも聖母マリアと少年主イエスを大事に見守っているのです。

聖ヨセフの心の中に見られるのは深い柔和です。柔和は弱者の特徴ではなく、むしろその反対に心の強さを示します。よく注意し、共感し、他者に心を開く力です。愛する力です。慈しみと柔和を恐れてはなりません。

聖ヨセフと同じようにつつましく、具体的に、また忠実に奉仕することを目指すことが招かれています。そして、聖ヨセフと同じように手を広げて神の民全体を守り、愛・柔和をもって全人類を受け入れることも勧められています。マタイ福音書が愛のわざに関する最後の審判について述べたように、受け入れる人々は特に貧しい人、弱者、小さい人、すなわ



ち飢えている人、のどが渇いている人、旅をする人、裸の人、病気の人、牢にいます。

この特別年によって、教会の保護者である聖ヨセフの模範に倣うことで、神のみ旨を十全に果たしつつ、信仰生活を日々深めることができるよう、さらに人々をもっと大切にすることができるよう、目指していきましょう。

桜の咲く季節と、ともに新しい年度を新しい心でキリストの希望をもって過ごしていくことができますようにお祈りしております。

ディン 神父

※挿入画像は「大工の聖ヨセフ」

ジョルジュ・ドラトゥール作



主の復活

主が共にいて、働いてくださる

満開の桜に代わって新緑の美しい季節がめぐってきました。今年の聖週間、復活祭は、昨年と違って曲がりなりにも典礼を営むことができました。まずはそのことに感謝いたしましょう。しかし、まだ大きな声で共に賛歌を歌えない、マスクに消毒、検温、密を避ける、人数制限を行う等、いくつかの制約を我慢しなければなりません。

しかし、復活信仰とは、まさに、そのようなありのままの現実の中に、復活された主が共に生き、働いていてくださることを確信する信仰です。決して以前の状態への復帰を期待するものではありません。事故で足の自由を失い、病気で臓器の働きが低下し、加齢によって様々な故障が生じる、そうしたことをもとに戻すことはできません。そうした中でも、主が共に歩んでいてくださることを日々確信して生きる、力強い信仰、鍛えられた信仰、本物の信仰に近づくことができますよう、祈りながら過ごしてまいりましょう。

作道 宗三 神父

四旬節黙想会 3/14



恵みの細江教会 黙想会

四旬節第4主日(3月14日)、コロナ対策で自粛の中、参加者**40**名の黙想会でした。中井神父様と親交があり、お互いに響きあっておられる川口昭人神父様が、長崎大司教区水主町教会から来られ、参加できたのはまさに神の恵みでした。講話の初めと終わりに、マリアの賛歌(マグニフィカト)を味わい、お祈りしました。「私の魂は…」と前半の主語はマリア様ですが、後半から、主語が「主は…」に代わる。唱えながら聖母マリアのとりなしの確かさを感じました。

福音「良き知らせ」のギリシャ語エヴァンゲリオンは軍事用語でもあり、勝鬨をあげるの意味。「万軍の神なる主」「神の武具を身に着けなさい」など兵への言葉が聖書に残されているのは、悪から救われるため、その戦いに勝つ強さを身につけよとの教えでしょうか。配布された講話内容と水主町教会報を読み直して、理解を深めることができました。

神父様はS44年生まれの上五島のご出身。軍港佐世保で成長されました。町に流れている米国国歌を毎日聞いていたそうです。沖縄の問題、米中対立の問題にも触れられ、講話時間が無くなる寸前に、中井神父様がレジメの最後のテーマ「幼き聖テレジアの言葉」を話すように促されましたが、「24歳という若さで、生涯を終え、誰にでもわかる言葉で、カルメル会の霊性を全教会に示したのですから。…すばらしい。また機会があればお話ししたい」とだけ言われ、終わりの挨拶をされました。

テレーズは、日本でも慕われ、洗礼名につけられるのはマリアに次いで多いそうです。「幼き聖テレーズ自叙伝」は世界50か国語以上に翻訳され愛読され、その聖性と高い観想へと私たちを招いています。ところが最近の私は、急速な心身の衰えを言い訳にして、霊的読書は積読という有様。反省をした黙想会でした。

神に感謝！

菊野 清一

4/3 聖土曜日 復活徹夜祭



光の祭儀は無かったけれど、復活のろうそくに火が灯り・・・希望の光が心に宿ります。

聖週間 4/1～4/3

コロナ禍対応典礼

3/28 受難の主日



ホールからの行列も歌も無いミサでしたが、司祭より祝別された枝を持ち帰りました。聖週間の始まりです。

4/1 聖木曜日 主の晩餐



祭壇にご聖体が顕示され、聖堂で静かに主の十字架を思い祈る夜。

4/2 聖金曜日 主の受難



十字架の顕示

「見よ、キリストの十字架、世の救い。」
ともにあがめ、たたえよう。



この夜に洗礼を受けられた、ベトナムの青年ビンセント TA VAN DUC (タバン ドウック)

「日本に来て7年になります。教会に通う彼女を通してベトナムの仲間や皆さまに出会って、とても心が温かくて良かったです。これからもよろしくお願いします。」と、爽やかな笑顔で挨拶をされました。

・・・受洗おめでとうございます！



地区だより IX

平戸で生まれ、11人の兄弟の10番目、男6人女5人、皆元気に育ちました。海が近く海・山が遊び場で、夏は一日中真っ黒になりながら泳いでいました。

両親は子どもも多い中、知らない老夫婦の面倒を見たり、その方達も洗礼を受けられた

事を覚えています。保育園には叔母達がいたので、下の弟と叱られたりもしながら、楽しく通っていた気がします。6年時は公教要理を学び教会での思い出が多いです。ある夢に向かっていたのですが、大学一年で断念し、神よ、あなたの道を示し、その小道を教えてください・・・と。

船舶エンジンの販売、修理を60年夢中で頑張りました。根っからの酒好きで、生活習慣病検診の数値は散々ですが、治療しながら過ごしています。子ども3人、孫9人、コロナ禍の中、早く終息をと願いながら一日一日を大切に祈っています。

『神よ、あなたは永遠のいのちのことば』

神に感謝です。

S. I

細江教会へ来られている

ベトナムの青年たちの紹介



私はフェと申します。日本に来てから3年になりました。

日本に住んでいろんなことを感じました。悲しいことも嬉しいことも過しましたが、特に、人間関係のコミュニケーションが印象を与えている。多くの人がそれは嘘だと言いましたが、私にとってそれは芸術だと思っています。日本人は優しく、親しみやすいと思います。さらに、家族から離れて暮らさなければならないのですが、私は孤独を感じません。なぜなら、神様はいつも私と共におられるからです。

毎週の日曜日、私は心配なことを分かち合うために、教会に行きます。

この道を選んだのはラッキーだと思います。もし、もう一度選択があれば3年間と同じことを選択しています。私は絶対後悔しない。

2021年度の広島教区の方針

細江教会の方針は？

広島教区では宣教司牧のテーマは3年毎に設定されています2020年4月～2023年3月までは、「社会へのチャレンジ」という標語に要約されています。1年毎に「いのち」→「環境」→「平和」というサブテーマがあり本年度は2年目の「環境」となっています。

(新しい広島教区報をご参照ください)

・・・細江教会の取り組みとして、まずは教会周りの清掃活動等を行い、一つのゴミから私たちの回りの環境問題に目を向けていただけたらと思います。

コロナ禍でできない事も多いのですが、近隣の方々との交わりの中で「福音の種」を蒔き、その芽を開花させればと思っています。

環境について何かご提案がございましたらお知らせください。これからも、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

近藤 豊之



編集後記

- ・ ご復活おめでとうございます！感染症が終息し、自由にミサに与ることが出来ますように。
- ・ コロナワクチンの接種はいつになるのかわかりませんね。外で仕事をしている人々や若い世代の方々を先に、接種できればと思うのですが・・・。
- ・ 悲しい出来事に慰めのことばが見つかりません。少しでも心の支えとなれますようにと祈るばかりです。
- ・ 教会便りを教会に来られない方々にお届けしていますが、十分ではありません。皆さまのご協力をお願いします。

広報委員会一同